

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和3年2月26日
関東運輸局

評価対象事業名： 離島航路運営費等補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
東京都離島航路地域協議会	神新汽船株式会社	神津島～下田航路	事故なく安定した運航が実施できた。	荒天による欠航以外は、計画通り運航でき、事業は適切に実施できた。 運航回数：計画316.0回 ➡ 実績256.0回(計画比81.0%)	・旅客輸送人員：計画人員9,800.0人 ➡実績4,784.5人(計画比48.8%) ・自動車輸送台数：計画台数750台 ➡実績515台(計画比68.7%) ・新型コロナウイルス感染症の影響により、目標を大きく下回った。	世界中で新型コロナウイルス感染症の脅威が続く中、可能な限りの感染予防対策を講じ、安心して安定した運航の継続と旅客、自動車輸送数の拡大に努め、航路運営のサービス改善・収支改善を図る。	航路運営については、荒天による欠航を除き計画通り運航されたが、輸送人員及び航走台数については新型コロナウイルス感染症の影響により目標を下回った。 来年度は、⑥に記載されたとおり感染防止対策を講じつつ安心して安定した運航の継続と旅客、自動車航走数の拡大に努め、自動車航走数をはじめとする輸送量の増加及び収支改善を期待する。 また、伊豆諸島・小笠原航路全体としての、観光振興なども視野に入れたサービス向上や、島民の生活の質の向上に資する施策の取り組みを検討されたい。	
東京都離島航路地域協議会	東海汽船株式会社	東京～八丈島航路	令和元年11月の会社創立130周年ツアーや新造船の就航に伴う利用客増を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、島民利用・旅客利用共に昨年同時期に比べ大幅に減少した。東京～三宅島間は10,462名の減少、東京～御蔵島間が3,073名の減少、東京～八丈島が6,238.5名の減少であった。全体として48.1%の利用者減少となり、航路運営に大きく影響した。	事業は適切に実施したが、航海数は計画数366.0回に対し、悪天候等による欠航があり、就航回数344.0回(計画比94.0%)となった。夏季の悪天候が少なく、5-8月は欠航0であった。	・旅客輸送人員：計画111,090.0人 ➡実績57,451.5人(計画比51.7%) 新型コロナウイルス感染症の影響による旅客人員減、燃料油価格下落の影響により燃料調整金が減少し、旅客運賃は計画比54.6%であった。 ・貨物輸送量：計画43,965トン ➡実績41,109トン(計画比93.5%) 貨物運賃も燃料調整金の減少に伴い、計画比98.6%であった。	新さるびあ丸の就航により、快適性が向上することによる利用客数の増加や、船の燃費向上・修繕費の減少に伴う経費削減が期待できる。 GoToトラベル事業など国/都道府県の政策を積極的に導入するとともに、お客様に安心してご利用いただけるよう新型コロナウイルス感染症の予防対策に万全を期したい。	航路運営については、荒天による欠航を除き計画通り運航されたが、輸送人員については新型コロナウイルス感染症の影響により目標を下回った。 来年度は、⑥に記載されたとおり、新さるびあ丸の就航により、利用客数の増加、船の燃費向上・修繕費の減少に伴う経費削減を期待する。 また、利用客に安心して利用できるよう感染症対策を講じつつ、GoToトラベル事業などの政策を導入した取り組みを検討されたい。	

**地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)**

令和3年2月26日

関東運輸局

評価対象事業名： 離島航路運営費等補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
東京都離島航路地域協議会	伊豆諸島開発株式会社	八丈島～青ヶ島航路	運航ダイヤの改善及び利用客の利便性向上を図りつつ就航率の向上を図った。	荒天の影響による欠航以外は計画通り運航し、事業は適切に実施した。(運航実績140.0回／運航計画238.0回、計画比58.8%)	旅客輸送人員は、計画人員2,056.0人に対して実績は1,435.5人(計画比69.8%)となった。新型コロナウイルス感染症の影響により大幅な人員減少となった。	新型コロナウイルス感染症の拡大予防対策を講じた上で、島民の利便性を考慮した適切かつ安定した運航を確保するとともに、航路運営収支の改善を図っていく。	航路運営については、荒天による欠航を除き計画通り運航されたが、輸送人員については新型コロナウイルス感染症の影響により目標を下回った。来年度は、海象条件が厳しい航路であるが⑥に記載されたとおり、島民の利便性を考慮した適切かつ安定した運航の継続を期待する。また、伊豆諸島・小笠原航路全体としての、観光振興なども視野に入れたサービス向上や、島民生活の質の向上に資する施策への取り組みを検討されたい。	
東京都離島航路地域協議会	伊豆諸島開発株式会社	父島～母島航路	運航ダイヤの改善及び利用客の利便性向上を図った。	荒天の影響以外に、新型コロナウイルス感染症の影響により、減便を余儀なくされたが、事業は適切に実施した。(運航実績262.5回／運航計画285.5回、計画比91.9%)	旅客輸送人員は、計画人員23,430.5人に対して実績は16,390.0人(計画比70.0%)となった。新型コロナウイルス感染症の影響により大幅な人員減少となった。	新型コロナウイルス感染症の拡大予防対策を講じた上で、島民の利便性を考慮した適切かつ安定した運航を確保するとともに、航路運営収支の改善を図っていく。	航路運営については、荒天による欠航と減便を除き計画通り運航されたが、輸送人員については新型コロナウイルス感染症の影響により目標を下回った。来年度は、⑥に記載されたとおり、島民及び観光客の利便性を考慮した適切かつ安定した運航の継続を期待する。また、伊豆諸島・小笠原航路全体としてのサービス向上や、島民生活の質の向上に資する施策への取り組みを検討されたい。	
東京都離島航路地域協議会	小笠原海運株式会社	東京～父島航路	当該事業の支援対象の初年度であるため、前回の事業評価結果の反映はなし。	新型コロナウイルス感染症の影響により、航海数は計画数61.0回に対して、GW・夏期の折返し運航(父島到着後すぐに東京へ折り返すピストン輸送)を中止したため、就航回数55.0回(計画比90.2%)と減少したが、事業は適切に実施した。	新型コロナウイルス感染症の影響により、旅客輸送人員が、計画人員57,000.0人に対して、34,172.0人(計画比60.0%)と大幅に減少した。	新型コロナウイルス感染症が終息した時に備え、小笠原村とより一層連携し、小笠原航路の魅力を訴え、輸送人員の回復に努める。航路運営については、今まで以上に経費節減をしていき、早期の収支改善を目指す。	航路運営については、新型コロナウイルス感染症の影響により運航回数と輸送人員が目標より下回った。来年度は、⑥に記載されたとおり小笠原村とより一層連携し、小笠原航路の魅力をPRして輸送人員の回復に努め、航路運営については、経費の節減に一層注力し、収支の改善を図る取り組みを検討されたい。	